

埼玉大学経済学部同窓会

経和会会報

第 1 号

1998年5月1日発行

発行 埼玉大学経済学部同窓会
経和会会長 伊藤 正昭

浦和市下大久保 255 番地
TEL 048-858-3281

会報発刊にあたって

経和会会長 伊藤 正昭



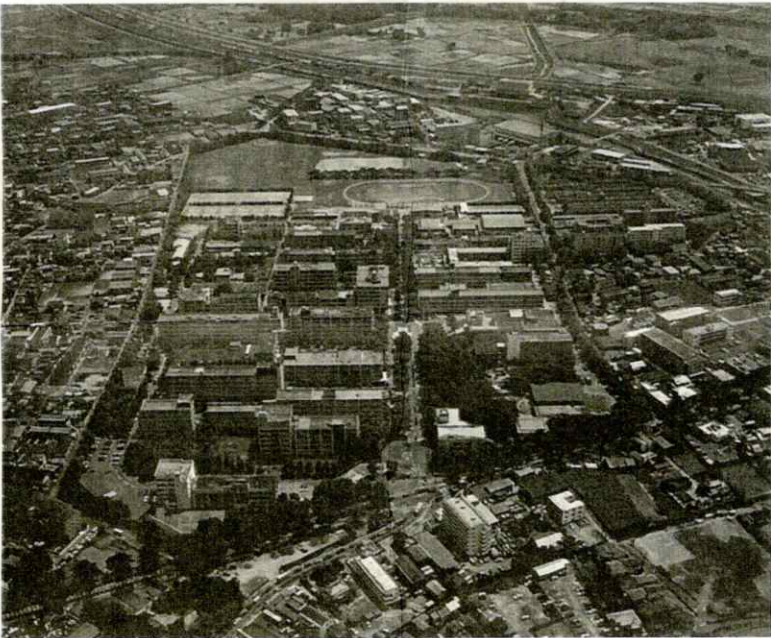
一九八三年二月に発足した経和会もこのたび役員諸氏のご努力と経済学部当局のご協力により、ここに念願の会報第一号をお届けできることとなりました。

この会報の最大の目的は卒業生に大学の現況を伝えるとともに卒業生の社会での活躍ぶりを会員の皆さんに知って頂き、会員相互の情報交換のきっかけを作り出すことにあります。

我が埼玉大学も来年は創立五〇周年を迎えますが、経和会の五七〇〇人に及ぶ卒業生はあらゆる一流企業、官公庁、大学その他の研究機関において重要なポストについて活躍しており、中にはしばしばマスコミに登場したり、論文を発表する有名人も少なくなく、公認会計士、税理士、弁護士などの専門職種にも進出して

います。
勿論、昭和三三年頃までの卒業生の中にはすでに第一線を退いた方もおられますが、そのような先輩たちも大企業の社長や専務、常務などの役職の経験者も少なくなく、また独立して会社の経営に当たっておられる方もおられます。

このような豊富な人材を擁する我が経和会は、母校の発展に寄与するのは勿論のこと会員自身にとってもかけがえない財産であると思えます。



もとより、社会生活において、導いてくれる先輩はなにより力となるでしょうし、また先輩にとつても自分の開拓した道を優秀な後輩に引き継いでもらうことはなにより喜びに違いありません。

そのような場合に共に経和会会員であるということが如何に有益であるかは明白であります。

そして、この財産を有効に役立てるためには、なにより会員相互の活発な交流が必要であると見え、我が経和会は卒業生相互の視察だけににとどまらず現役の学生、院生の皆さん

との交流を重視し、入学時から経和会の会員に迎え入れ、その目的を達するための種々の企画を立てて行うと考えています。

その第一歩として、ここに会報を皆さんのお手元にお届けして会員名簿とともに大いに役立てて頂きたいと思っておりますが、今後定期的に発行を続け、紙面をより一層充実させて行くためには皆さんの積極的な参加が是非とも必要であります。

有益な企画やご意見を、会報編集委員宛にどのしお寄せ下さるようお願いして創刊のご挨拶と致します。

経和会役員名簿

氏名	卒業年次	役員		名譽役員		職
		会長	副会長	常務理事	理事	
伊藤正昭	S30					
奥山忠信						
伊藤恵永						
中野久						
内藤久						
鈴木久						
酒寄義						
矢野和						
中野直						
中野武						
町田久						
岩田英						
大澤毅						
櫻田彦						
早川弘						
高橋断						
鎌倉一						
青木茂						
高橋夫						
青木憲						
高橋達						
榎川吉						
石川弘						
中里寿						
中里敏						
田坂幸						
木下司						
水野安						
相澤昌						
相澤一						
平本武						
五百久						
五百男						
館逸						
武純						
神山章						
神山一						
千藤健						
齋藤賢						
齋藤一						
大橋秀夫						

経和会に期待する

埼玉大学経済学部長 奥山忠信



三年前に同窓会である経和会再建の動きがはじまり、総会が行われたのが一九九六年十二月、会員の活発な活動によって、しうにか経和会も軌道に乗ってきました。心から御礼申し上げます。埼玉大学経済学部は、ここ数年間の改革により、経済学科、経営学科、社会環境設計学科の三学科を擁し、昼間コースと夜間コースを備え、定員は一学年三三〇名、また大学院経済科学研究科修士課程は定員十五名、これに教官定員は六五名と大規模な学部で成長しております。昨年一月には新しい経済学部棟も建ち、学生も教官も意欲を新たにしているところです。

ところで昨今、大学を取り巻く社会的な環境は非常に厳しいものがあります。特に行政財政改革は、国立大学の存在を改めて問い直す契機ともなっており、埼玉大学経済学部もその存在理由が問い返される時期にきております。こうした社会情勢があつて、何よりも大事なことは、大学が地域社会に開かれていること、市民が大学を必要とするときに、大学の存在理由は確実なものになります。

経済学部では、地域に開かれた大学づくりを目指して学部で夜間コースを開設し、定員五〇名の内の三五名を社会人特別選抜によって採用しております。また、大学院経済科学研究科では定員十五名の内の九名を社会人選抜に当て、小論文と面接によって選抜試験を行っています。大学院は昼夜開講制で、夜間のみの授業でも修士号をとれるようにカリキュラムは組まれています。いずれも、多くの受験生が集まり、入学後も意欲的に勉学に励んでいます。大学の業しさは、社会人経験者の方がはるかに理解できるようです。大学

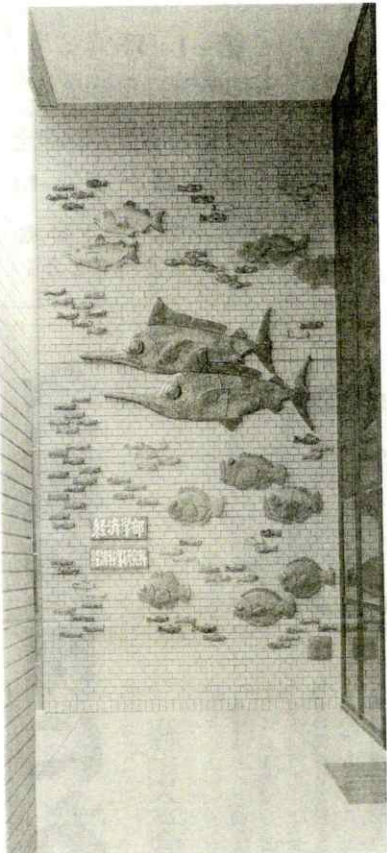
院には、経和会の会員も多く入学し、学生時代を思い出しつつ、論文の作成に取り組んでいます。大学が開かれたものであろうとする際に、同窓会の役割は大変大きいものがあります。この間、学生の就職相談に乗っていただいたり、学部の行事に参加していただいたり、いろいろなご助力をいただいております。しかし、国立大学を取り巻く厳しい現状を考えると、埼玉大学経済学部はもう一段の飛躍をしなければなりません。微力ながらも、学部として経和会にできる限りの協力とさせていただきます。そして経和会のご理解とご協力をいただき、埼玉大学経済学部をより充実したものに育てていきたいと思ひます。

果たしたアイネット株式会社の社長 池田典義、共産党埼玉県委員長増子典男、名簿作成に奔走した経和会副会長を務める内藤勝久など多士計々。一昨年からゴルフコンペを十一月に開催。毎回一〇〇名程度が参加。八十台が出ることは稀だ。名簿を作ろうとの声が上がったのは四年前のさくらさき会の時、高津吉村、矢野野、高橋、内藤がまず行動しその後の刊行委員会の発足へと繋がった。

同期会紹介 ①

きよいらぎ会(昭和三十八年卒)

その名の通り毎年二月に恩師を交え、常時二十名程度が集まって学生時代のような酒を飲んでいる。若干酒量が変わり大人しくはなったが舌鋒は相変わらず鋭い。幹事は持ち回りだが中止になったことは一度もない。全員がいずれも名幹事である。しかし緑の下力持ちは高橋、名簿をしっかりと管理しているのが幹事も安心。五十八歳で初めての子に恵まれ子煩悩ぶりも板に付いてきた。二十五年前に会社を興し東証二部上場を



経済学部新講義棟玄関壁面陶製オブジェ「望」 市川禎作 作

募金活動へのご協力ありがとうございました

平成九年秋、一口五千元の経和会基金の募集をお願いしたところ、四〇五名の会員から二八六万五千元の基金が寄せられました。お蔭様で未払いや立替金などを精算し九七年十二月末をもって赤字財政からの脱出を果たしました。目標(五千元)には遠く及ばなかったものの、通信費や印刷費など当面の活動費を確保することもできました。ご協力ありがとうございました。ここに謹んでご協力いただいた方々のご芳名を掲載させていただきます。

- 宮本昌幸、昭34石田秀隆、磯崎昇、碓井良明、枕谷勉、菅野和夫、久保信明、久保信義、小林健二、紺野隆、角川信義、圓谷孝男、中野恵水、西浦直澄、西片昭五、林短子、林英夫、日高準一、平野準一、松下英雄、渡辺正勝、昭35赤羽啓、飯島秀男、五十嵐千児郎、斉田忠一、斉藤豊、副島茂範、多比羅順一、俵克己、高川正義、土屋實雄、寺嶋滋夫、中村一昭、安川忠安、康本徳守、山中朝徳、昭36相川茂、井川徹、江頭陽一、大谷洋生、海保和司、熊木幸雄、小林一博、小松寛之、塚本清、坪井五夫、直江忠、早川弘文、比留間雅夫、吉田貞夫、昭37大谷守生、木村碩夫、小林尚茂、酒寄和郎、富田不二雄、酒寄操、丸山研造、矢口隆、昭38赤羽正行、芦野洋雄、池田典義、小澤清之、栗原毅、島津進、清水安衛、岡崎、高久哲治、高橋断、田口敏一、内藤勝久、成子俊生、増子典男、松村健、宮坂彰一、矢野野、渡邊龍雄、昭39石原健二、伊藤謙之、岩城昌一、鎌倉一郎、木村克二、鈴木芳典、田村元一、水井政勝、四元忠博、昭40澤葉武志、大久保恵一、後藤清亮、青藤英、野口節子、林田雅爾、昭41青野常一、加村トク江、佐藤進、三瓶勝夫、畑川純、昭42小林典、高橋達夫、中村忠志、西ヶ谷浩正、沼野芳夫、林経一、渡辺清子、吉田祐次、昭43入野勝見、清水一男、水本孝一、松本三枝子、藤村盛洋、松田吉徳、堀清正信、昭44樋口和子、純名喜美雄、菊池慎一、北山一男、藤田憲吉、齊藤健雄、三枝勝利、佐藤伸治、多賀谷健司、中角清幸、中村明行、山崎道雄、四辻英隆、昭45石川義弘、伊藤信也、遠藤雅史、大下公雄、梶間幹一郎、北村康夫、木村高、松井敏、佐渡晋一郎、島谷敏夫、関根和正、高橋義烈、樽井欣也、島山裕美、中川義浩、根本英雄、長谷健司、花城可保、羽生正義、福本敏明、古寺伊都博、昭46秋葉隆志、小畑秀夫、小林千修、齊藤一正、坂本繁一、昭47會川精司、上野忠、木村正一、権頭主計、杉浦二朗太、杉村哲男、鈴木一成、多ヶ谷茂、田坂敏幸、田中邦憲、本間正大、松崎健、昭48藤原邦江、小川由紀夫、栗原茂、長友三夫、平田純一、松村廣一、三宅一郎、村山聖次、森久保勝、茂呂好和、山本由幸、昭49豊島光男、藤原育雄、三ツ石哲郎、三宅豊、昭50上岡隆、佐竹大隆、奈良晃昌、萩野純一、藤川恭一、杉山章子、水野昌一、宮脇豊、山口正、山田昌弘、昭51菊池勉、小松茂清、高野謙、谷口維子、広瀬洋、福岡昭一、福原幸彦、小越信良、昭52相原武司、上原正義、奥村裕、高橋康夫、長澤均、樋口一雄、福田稔、昭53飯高成美、岡戸雅彦、葛西重敏、久保和雄、小林新治、後藤康夫、高崎博男、鈴木忠雄、十枝内康仁、富田啓文、中村直行、幡野寛、林完治、上藤秀暢、昭54浅見和男、安藤文博、一ノ瀬弘志、井上孔誠、井上靖、遠藤仁、小川克己、笠原修、梶浦啓司、加納達信、小谷弘、松井茂、中澤篤、豊田清美、中村正宏、浜野久男、古屋賢一、松本幹春、三田村耕太郎、昭55青木治夫、池田洋、磯村和幸、遠藤智、小沢進、小野口雅利、松井光男、篠田正博、高橋秀典、多々木久男、篠田和彦、林祐司、深見吉彦、三浦俊哉、昭56関悦子、奥井雅士、小倉明、後藤文孝、笠達忠、田中正紀、塚田修身、野口和弘、山本俊郎、昭57河野浩司、清水久雄、手嶋敬、渡邊朝一、昭58荒川泰行、大橋秀夫、大橋秀夫、昭59新井克典、一ノ瀬文志、糸長健一、武田純一、西澤光男、昭60安齋忠、山下善造、吉田拓信、昭61安齋忠、小西崎也、岡田弘信、神山英章、小西一、澤田徳彦、渡谷智、細谷徹明、昭61千葉健、藤田誠、昭62服部和文、平出健一、山田伸治、山田真也、昭63池田清樹、田野薫、佐藤庸一、高城卓也、竹井勤、谷本晋、遠山勉、中村誠徳、堀越隆、吉野清高、平水谷亨、三木正則、横田正道、ストライヤミナコ、平2鈴木佳子、柴田敏、野村透平、平4飯塚洋、木きよみ、菅沼正彦、平4飯塚洋、木岡上、栗栖貴紀、小林浩徳、末広茂富安一、矢澤由雅、横山徹、平5菊田基晴、佐藤修一郎、鈴木玲子、土屋慎一、平6安藤隆行、島田佐知代、下地正浩、中野辰也、長谷川英明、村上愛、山崎貴信、平7伊藤正治、太田典利、亀井昭典、千葉隆俊、平8鶴川益美、小口雄司、甲木聡子、木村嘉隆、高野哲也、畑下知大、村沢佳文、佐藤隆、東穂汎規

キャンパスだより

経済学部 待望の新棟完成



済短期大学棟は「経済学部B棟」と、それぞれ名称が変更し、経済学部全体の占有面積は三〇五、九〇二平方メートル、(約九二、七〇〇坪)となった。

平成八年度末、経済学部は五階建の新棟(正式呼称は経済学部A棟)が完成した。

正門を入って右側、大会館と従来の経済学部の間に位置し、総面積は二二九八、一六平方メートル(約七〇〇坪)緑の樹木に囲まれた洒落なたたずまいである。

新棟の完成によりこれまでの経済学部棟は「経済学部研究棟」、旧経済学部棟は「経済学部研究棟」、旧経済

充実の「社会動感資料センター」

— NGO関係資料では日本一 —

さらに充実する「知の情報源」

経済学部の発足にともなって設置された「資料室」と1997年7月に開設された「社会動感資料センター」、二つの学部内施設が本年(1998年)3月後者の名称のもとに統合されました。

資料室は皆様が存知の通り、紀要・統計・白書・年鑑類、和洋雑誌、会社史、地域史その他人文・社会科学に関する多

様な分野の文献資料を取り揃え、教員スタッフ・学生・院生の研究、学習に役立つ情報源としての役割を担ってまいりました。

また、社会動感資料センターは、①NGO活動、②労働問題、③消費者問題、④公害裁判、⑤地域・住民運動の五つの分野での社会活動の現場から発信される原資料を収集し、多様で混沌とした現代的課題の研究に役立つことをめざして設置されたものです。

約14万冊の旧資料室所蔵書籍・資料と、約15万点の旧社会動感資料センター所蔵資料が機能的に統合された結果、その資料の豊富さにおいてもまたユニークさにおいても今や埼玉大学経済学部は国立大学の中でも特筆すべき情報源を備えることになりました。

卒業生の就職状況

平成九年三月期卒業生

バブル崩壊後、有効求人倍率は超低水準のまま一向に好転の兆しが見えない。卒業生の数も少なく、真面目で学力も高水準と定評のある埼玉大学卒業生もさすがに厳し就職戦線の中で苦勞をいられている。九七年三月期には従来の経済学科・経営学科に加えて、新たに社会環境設計学科が初の卒業生七五名を社会へ送りだすこととなった。また夜間主コースから三学科合わせて四二名が卒業、卒業生合計では三二六名(うち女子八三名)と前年度までの二〇〇名強を大きく上まわることとなった。

九七年三月末現在の調査結果によると二四六名の就職が決まっており、全体の七七・八%が職を得たことになる。しかし、前年度の八四・九%前々年度の八〇・三%に比べて就職率は低下しており、厳しい現実を物

に加えて、こうした資料は学内あるいは学部内学生・教員だけで利用するのはなく、学外のみなさんでも閲覧できるように一般公開をしています。利用時間も平日午前九時15分から午後七時15分(授業のない時期は午後6時15分)まで、夜間主コースの学生や勤めのある方の便宜を図っています。

また、長期的な希望としては、単に資料を提供するだけでなく、学生、教員、市民がさまざまな関心で集い、知的な刺激を相互に交わせ、新しい視点での学内外の共同作業が生まれる「開かれた研究の場」となることを考えています。

「開かれた研究の場」への第一歩となる新しい試みとして、現在、公開シンポジウム、公開セミナーの準備を進めているところです。最初の

■産業別就職者数(昼間主コースの場合) (表I)

年度(産別)	1995年度(平成7年度)		1996年度(平成8年度)	
	全体	(女子)	全体	(女子)
農林・水産	41	(3)	50	(14)
建設	3	(0)	4	(0)
電気・ガス	10	(0)	10	(0)
運輸	27	(6)	23	(9)
卸・小売業	55	(11)	57	(20)
食料	8	(2)	9	(0)
サービス業(教員を含む)	20	(6)	38	(16)
公務	24	(8)	29	(9)
小売業	186	(36)	246	(64)
その他	30	(8)	87	(17)
大	3	(1)	3	(2)
合	219	(45)	316	(83)

※表中の1996年度分については、1997年3月31日現在の時点でのもの。

な環境である。近くにお出かけの際は是非見学に立ち寄られることをおすすめする。

語る。 (表I)

業種別には従来は金融保険業が最も多く全体の四〇%近くを占めた年もあったが、当年は二二・二%と前年の二九・六%に比べても大きく低下しており金融ビッグバンの影響がうかがわれる。

■主な就職先一覧(1996年度) (表II)

建設・製造業	サービス業	金融・保険業
NTTデータ通信	NTTデータ通信	あさひ銀行
第二電電	伊勢丹ファイナンス	第一勧業
大和ハウス工業	国民金融公庫	足利銀行
三愛重工業	住宅金融公庫	東邦銀行
三国ココロ	中小企業金融公庫	東海中央銀行
ナスレマキ	水戸信用金庫	百十四銀行
カゴメ	サービスマン	栃木銀行
明治製菓	丸九百貨店	東京相和銀行
共同印刷	丸九	三洋証券
国書印刷	セブ・イレブンジャパン	新日本証券
日新電機	いなげや	東海海上火災
スタンレー電機	ダイエー	住友海上火災
NKK	マルエツ	東亜火災海上
デンソー	東武ストア	興亜火災海上
新日経	丸文	日本生命保険
東急車輛製造	あさひ銀行	住友生命保険
三菱重工	第一勧業	安田生命保険
日野自動車	足利銀行	
自動車機器	東邦銀行	
不動産	東海中央銀行	
大東	百十四銀行	
住友	栃木銀行	
都市整備公団	東京相和銀行	
電気・ガス	三洋証券	
東北電力	新日本証券	
東京ガス	東海海上火災	
サトウ・カイ	住友海上火災	
運輸・通信	興亜火災海上	
国際航業	日本生命保険	
日本通運	住友生命保険	
日本モトローラ	安田生命保険	

過去五年間の就職先ベストテンを見ると(表III)官公庁と政府系ならびに民間の金融機関が全てであるのが特徴的で、いかにも埼玉大学らしさを表しているといえよう。

経和会では学生諸君の厳しい就職活動を少しでも支援しようと、大学が主催する就職セミナーに毎年数名の代表を派遣して、講演や学生の相談にのるなどの協力をしている。

また同窓会名簿が完備したことから、就職活動中の学生諸君が経和会

■就職先ベスト10 (表II) (過去5年間)

- あさひ銀行
- 埼玉銀行
- 国民金融公庫
- 埼玉信用金庫
- 日本電信電話
- 東京海上火災
- 安田生命保険
- 東京都庁
- 浦和市役所
- 東海国税局
- 郵政省
- 栃木県庁
- 中小企業金融公庫

大学院・経済科学研究科

経済科学研究科は経済学部の経済・経営・社会環境設計の三つの学科を母体に、社会科学を学際的・横断的・総合的に研究する学問の府として一九九三年に設立された新しい大学院である。定員は一五名であるが幅広い層の院生を受け入れるため、一般選抜学生三名、社会人特別選抜学生三名、留学生三名という三通りを選抜方法を実施している。このように社会人の人数が最も多く、なかには企業や自治体等の職場から派遣されている研究者もいる。

また他の大学で既に研究者として活躍中の人が自分の研究に関連する他の学問領域を学ぶために入学したというケースもある。

わが経和会役員の中にも現役パリのビジネスマンでありながら院生として熱心に学び、見事修了を果たした人がいる。

このように社会人院生が多いことから、受講生の便宜をはかり夜間も開講しているが、勉強が好きでたまらないといった人達の集まりであるから、仕事の疲れもいとわず非常に熱心に受講しているとのことである。履修コースは(企業経営と労働)・(経済発展と国際化)・(パブリックポリシー&ファイナンス)の四つで五〇本を超える多様な講義が用意されているという点である。

大学が開ざされた学問の府でなく、市民や企業人に開かれた研究の場であることを実践し、成果をあげている経済科学研究科にこれからも大いに期待したい。

経和会からのお知らせ

★平成10年度総会のご案内

七月八日開催・奮ってご参加を!

経和会では九六年十二月に、名簿完成を記念して久々の総会を開催しました。当日は強い雨にもかかわらず、約一八〇名の同窓生が出席、盛大なパーティーとなりました。

平成10年度からは、毎年一回定期的に開催しようということになり、時期は諸般の事情を勘案した上で七月としました。

同窓会は青春時代を共に過ごした同志が旧交を温める場であるばかりでなく、年代を超えた「異業種交流」の理想的な形であり、ビジネスチャンスが得られる場としても価値ある集いであると思います。

本年度の総会・懇親会は下記の通りですので、同期のみならず、親しい方々がお誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

「平成10年度経和会総会ならび

に懇親会」

一、日時 七月八日(水)

18時～19時 総会

(ミニ講演も企画中)

19時～21時 パーティー

二、場所 (総会・パーティーとも)

センチュリーハイアットホテル

Ｂ１「クリスタルルーム」

(TEL〇三三三四九〇一一)

ＪＲ新宿駅西口歩八分、都庁斜め前

(地上小田急ハルク前より送迎用シヤトルバスが利用できます)

三、会費 一万円

四、議題 (予定)

平成九年度事業報告・会計報告

平成10年度事業計画・同予算

規約一部改正の件、その他

※なおこの会報をもって招集通知に替えますので同封のハガキにて五月末日までに欠付をご連絡ください。

平成9年度事業報告

- 4月3日 常務理事会
会員名簿中間収支報告
- 5月27日 大学就職説明会
- 6月10日 理事会
会費名簿 総会 その他
- 6月13日 名簿代金未納者への督促
- 8月14日 会長副会長会議
今後のスケジュール
- 9月18日 常務理事会
基金 新入生の会費 総会
名簿のメンテ 広報誌
- 10月7日 理事会
同上承認
広報委員長に中野副会長
会計に酒寄常務理事選任
- 10月31日 基金協力依頼
- 12月19日 未納代金完済
- 2月17日 大学側より新入生の会費
徴収につき提案
- 2月25日 理事会
上記承認
- 3月2日 広報委員会
広報誌の割付
- 3月25日 卒業謝恩会
会長 副会長参加

★経和会ゴルフコンペを計画 埼玉大学創立50周年を記念して

開学五十周年記念事業として次の通りゴルフコンペを開催の予定。コースを借り切る為最低百二十名の参加が必要。同期会、クラブ、ゼミの同時コンペ開催も可。他学部の方もOK。

日時 平成十一年十一月八日(月)
場所 東松山CC
費用 29,000円
賞品パーティー昼食代含む

わが青春の蒼玄寮

昭和29年卒

仲佐秀雄

敗戦直後の新制埼玉大学の「創生期」の思い出を、寮生活を中心に書けたという注文を中野恵水さんから頂いた。往事茫茫、おぼろげな記憶の中で、ハッキリ残っているのは、北浦和の常盤町十丁目、大宮国鉄工賑工員宿舎あとのベニア張り「蒼玄寮」の汚なさと、埼玉県庁の西、別所沼の畔、旧女子師範寮だった「悠元寮」の暗い出口も入口もない、吹き抜け廊下の埃(ほこり)の匂いである。

占領軍が進めた六三三四制改革の荒浪の下、47年5月31日発足した埼玉大学は、旧制浦和高校、埼玉師範、青年師範の三校を継承して、文理、教育の二学部でスタートしたが、旧一高・東京高・浦高の東大合併構想が直前まであり、青年師範には東京農専との合併意向があるなど、教育民主改革の方向性は混沌としていた。旧制浦高

文理にも事実上、三年編入目標の医進コースなどがあって、学生の指すものは多様かつ不安定なものだった。開学準備も整わず、7月16日入学した私たち一回生は、すぐ夏休みに入り、講義開始は九月だった。今、北浦和駅西口正面の平和公園に当た

の武原寮の伝統は、何といっても、その先に旧帝大へのコースがほぼ約束されている故のエリート気質に支えられているものであった。他方、新制の埼玉大の教育学部は二年課程(小・中とも)定員三三〇名に対し、四年課程(同)は一〇〇名と少なく、初年度の蒼玄寮生は五〇余人。し

る文理科校舎は戦災で図書館、理科教室、旧武原寮しかない。講義は元浦高北寮だった前記のバラック校舎で、寮と職員寮、教室、事務が同居し、八棟中四棟は警察学校、消防学校、ろうあ学級など園で使っていた。かし毎年ふえ、完成年度の52年には四百人になり、人があふれた。十五畳五部屋で、押入にしかブライバシーはなかった。今思うと私たちは悪かったように、新生埼玉大のアイデンティティ(そんな言葉はなかった)を求め、人並みの大学、人並みの学生運動の内実を模索して、自

治会、寮役員会、新聞会、文芸部、わだつみ会、社研、教科研、児童文化研、健保などサークル作りが熱中した。政治嫌いな者は、生活部やホールのメニュー改善や、文部省との光熱費交渉などに打ち込んだ。実存主義を論じながら川口オートのバイトにはげんだ。その中で新聞学長、向坂、栗屋文理学部長、佐藤、吉田学寮主事はじめ教授陣が睨かれ白眼で見守ってくれたことが忘れられない。

五年の在学中、最も印象深かったこと。一つは朝鮮戦争勃発直後の50年7月13日早朝、武装警官に蒼玄寮が包囲され、占領政策違反のビラ押取に来た時、令状に「九丁目・武原寮」の誤記を発見。引き返させられたこと。二つ目は、完成年度の52年6月、第一回祭りが盛り上り、緊張の市中行進が無事終了した時だった。

インターネットホームページ

— 母校の情報をどうぞ —

母校の現状を知るには、主として受験生向けに毎年刊行される「埼玉大学案内」ならびに「埼玉大学経済学部案内」という冊子がある。またパソコンをお持ちの方は下記のホームページへアクセスするのが便利。

埼玉大学 <http://www.saitama-u.ac.jp/>
経済学部 <http://www.eco.saitama-u.ac.jp/>

編集後記

我々経和会の受講者同にサービスをして下さったのかも知れない。●それにしても経済学部の新講義棟は素晴らしい。冷暖房完備、エレベーター付、明るい照明などなど。考えてみればごく当前のことなのだ。が床が乱れ、スキ間風の入る木造校舎で学んだ者からすれば「今の学生諸君は恵まれているな」と思いたくならない。

●立派な設備をもった国立大学といえども、21世紀に向かっの将来展望という点では決して安閑としてはいられない状況である。少子化による学生数の減少がすでに始まっており、国立・私立を問わず大学教育全般にリストラの波が押し寄せ、るかも知れないからである。●だが経和会はいまようやくスタートラインに立った状態である。同じ新制の国立大学でも、旧高商系の大学は立派な同窓会組織をもち活動も活発であるが、わが経和会といえ、基金募集をしてようやく借金払いを済ませ、ささやかな活動基金を残し得たという段階である。●名簿が出来たのは活動のベースとして大きな成果だが、それ以外にはさほど活躍の実績もない。

●したがって経和会報第一号(記念すべき創刊号)なにも知れぬが)を編集するに当たって材料不足に悩ませられた。当分の間、年一回の刊行になると思うが、全てはこれから、会員諸兄の協力を得ながら充実していくしかない。

●会報に対する感想、ご意見、記事になるニュース(クラス会・同期会・ゼミOB会のことなど)、などをお寄せ下さい。●なお会報は毎年一回、総会通知に同封して今回と同じ時期に送付することになる予定である。